



(2017年9月28日、UPI/アフロ)

斜陽の公明党が カギを握る 「安倍改憲」

中野 潤

なかのじゅん シェーナリスト

世界 SEKAI 2018.3

一方、首相の安倍晋三は、選挙結果を受けて憲法改正の実現に意欲を示す発言を繰り返している。その中で、野党第一党がわずか五五議席となるなど野党勢力が分裂し弱体化し、憲法改正問題の行方は、議席を減らした公明党が最大のカギを握るといふ皮肉な状況になっている。そして公明党は、衆院選の反省を踏まえ、安倍政権のグレートキ役として存在感を高めようとしている。本稿では、昨秋の衆院解散の前後から現在に至る自公連立政権の内表を検証し、憲法改正問題を軸に連立政権の近未来を展望したい。

冒頭解散に強く抵抗した創価学会

九月一日、安倍は同月末に召集の臨時国会冒頭で衆院を解散することを最終決断した。そして、翌一日、首相官邸で公明党代表の山口那津男と会談し、「様々な情勢を勘案して臨時国会中に解散することも検討しています」と耳打ちした。ただ、安倍はあえて曖昧な言葉を使ったため、山口はまさか臨時国会冒頭

「森友・加計学園問題が連日報じられる中、公明党は注文をつけず安倍政権への支持を有権者に与えてしまったりなどの印象を有権者に与えてしまった」「平和安全法制（国家安全保障関連法）などを推進して『公明党らしき』を失う」と見られたことが響いた。いずれも昨年一〇月の衆院選直後、公明党内々で開いた党職員らによる敗因分析会が相次いだ。反省の弁だ。昨秋の衆院選は、自民・公明両党が引

き続き三分の二を超える議席を占める与党の圧勝だった。だが、大勝利は沸く目撃した公明党本部とは対照的に議席を減らした公明党本部には沈鬱なムードが漂った。小選挙区の神奈川県六区で議席を落とした上、比例代表で五議席減らしただけでは、現在の選挙制度の下で公明党として選挙に臨んだ二〇〇年以降、比例の得票総数が初めて七〇〇万票の大台を割ったことと幹部たちの気分を重くしていた。

で解散になるとは思わずに翌日、予定通りマスプロに向けて飛び立った。

山口がロシアに向かった後、官房長官の菅義偉は、かねてより親密な関係を築

いてきた創価学会副会長で選挙担当の佐藤浩に接触。安倍が臨時国会冒頭に解散

する可能性が高いことを密かに伝えた。

先の衆院選は、森友・加計学園の問題で内閣支持率が低下していた上、東京都

知事・小池百合子の新党も参戦が見込ま

れ、「守りの選挙」を強いられることは

確実だった。それゆえ、菅は公明党の選

挙母体である創価学会の支援をより確実

なものにするため、まず学会側の了解を

得ようと考えたのだ。

だが、菅から冒頭解散の可能性を聞か

された佐藤は、「あり得ない話だ。何よ

ら自民党幹部にも冒頭解散反対の考えを

伝えた。早期解散を阻止しよう」と安倍包

囲網の構築に動いたのだ。水面下では

数日間解散時期をめぐる攻防が行われた。

創価学会の選挙運動は通常、まず半年

ほど前に候補者の名前と公明党の重点政

策を組織内に浸透させることから始める

など綿密なスケジュールに沿って行われ

る。様々なレベルの会合を積み重ね、婦

人部を中心とした運動員を戦線モードに

した上で、「F（フレンド）作戦」と呼ば

れる、組織外の票を獲りに行く活動に邁

進させる。それなのに九月上旬時点では、

衆院選の候補さえ決めていなかったのだ。

学会側からの働きかけを受けて、当初

はその言い分に理解を示していた菅や二

階と自民党幹部

から帰国した安倍が、二階と自民党幹部

に冒頭解散の決意を伝えて了解を取り付

けると、外堀を埋められた創価学会は自

旗を掲げた。

これは受けて公明党幹事長の井上義久

は、一五日夕刻、翌日から三連休を前

何より不人気の首相（「麻生郎）の下で

する学会員の説得に難渋した恨みもある

の解散・総選挙に付き合わされ、小選挙

を握るといふ皮肉な状況になっている。そして公明党は、衆院選の反省を踏まえ、安倍政権のグレートキ役として存在感を高めようとしている。本稿では、昨秋の衆院解散の前後から現在に至る自公連立政権の内表を検証し、憲法改正問題を軸に連立政権の近未来を展望したい。